

令和7年度 学校図書館活用推進実践報告

新潟市立松浜中学校

1 図書館教育の目標

- ・進んで学び力を合わせてやりぬく生徒の育成
- ・広報委員会が主体となり、積極的で幅広い読書を全校に働きかけ読書への興味を促す
- ・多様な図書と併用し、タブレットなどICT機器を活用した探求学習での情報活用能力の育成

2 本校生徒の図書館利用の実態と課題

令和7年度 全校生徒 307人（学級数12） 広報委員19名

2024年度統計	蔵書冊数 12664 冊（図書標準 10160 冊 学級数 11）
	貸出冊数 2352 冊（一人平均 8,4 冊）

古い図鑑や資料が廃棄されておらず、分類案内の掲示物等が色褪せていて、本が探しにくい。また新刊案内のお便りがなく、生徒職員ともに図書館への関心が薄い状態になっていたことも、貸出冊数と来館者数が少ない原因の1つになっていたと思われる。ホラーや、恋愛ものを好む生徒が多く、読書傾向に偏りがある。図書館で読書をする本好きの常連の生徒はいるが、貸出冊数は少ない。一方で、昼休みは体育館やグラウンドで活発に活動する生徒が他校に比べ男女とも多い。近隣の松浜図書館に仲間と学習に行くなど公共図書館に親しんでいる生徒もいる。

3 「読書センター」「学習センター」「情報センター」機能を高める取り組み

(1) 読書センターとして

- ・広報委員にイチ推し本のPOPを作成してもらい本と一緒に展示した。
- ・分類案内を新しく作成し、広報委員の生徒や協力してくれる生徒が手書きPOPタブレットで描いた絵を使って、様々なコーナーを作り、生徒と教職員が本を探しやすくした。



除籍を3回行い、あいたスペースに本の面だしを多くしたことで本の表紙を見て手にとる生徒が増えた。

- ・新刊案内のお便りを配布することにより、新刊を友人と一緒に借りにきて、ついでに友人も気になる本を見つけて借りていくことが多くなった。ブックトラックに返却本を置くコーナーをつくと他の生徒が借りた本が気になるのか、その中からまた借りていく生徒が増えた。スポーツ関連の本を購入・展示すると、授業で来館したいいつも外で遊んでいる生徒の興味をひき、借りていくことが度々あった。
- ・除籍した本の中から、まだ利用できる本を選び学級文庫用ブックトラックをつくり、学級文庫に入れる本をその中から広報委員に選書させた。すると、自分達が選んだ様々なジャンルの本を積極的にクラスメートにすすめる生徒が多く見られた。また、「歴史の本が人気です」と笑顔で教えてくれる生徒もいた。小さい本しか入れられなかったかごをやめて、全クラスに専用本立てを配置し大型図書も置けるようにした。

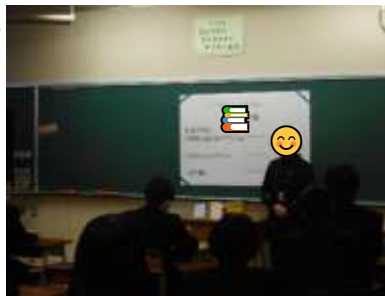


学級文庫の 自分で選んだ本がクラスの皆が 左のかごから右のブック立てへ キャラクターが
読んでくれるか考えて選ぶ 松ぼんに決定！

・もっと図書館に親んでもらうために、5年前に作成されて以降そのままお蔵入りになっていた図書館のキャラクターの松の盆栽を広報委員が可愛くリニューアルし、全校で名前を募集した。

・読み聞かせ・語りボランティアの皆さんによる語りイベント

毎年、読書週間の時期に合わせて11～12月に
道徳の時間を1時間いただき、ボランティア
さんにお話の語りをしていただいている。公共
図書館から関連本を全部お借りできたので、
1ヶ月展示をした。アンケートでは97%の生徒
が楽しかったという反応で、お話を聞きなが
ら、場面を想像して物語の世界にはいりこむこ
とや地域住民の方との交流は毎年貴重な体験になっている。



～りんごの棚設置と読書支援機器の整備～読みづらさを抱える生徒へ読書支援

- ・お便りをUDフォントにし読みやすくした。
- ・新潟市読書バリアフリー推進計画に基づき、アクセシブルな書籍（布の絵本・LLブック・点字つき絵本等）を選書し、3類の社会科学の棚の中にりんごの棚を作ること
ことで、支援の不要な生徒にも読書支援が必要な人がいることを理解できるようにした。
- ・様々なリーディングループ、リーディングトラッカー、魔法の定規（集中力アップのイエロー、疲れにくいオレンジ、眼精疲労軽減ピンクなどの色のバリエーションを揃えた）をりんごの棚に設置し、気軽に手に取り、図書館で使用できるようにした。
教職員全員の理解を深めるため、実際に試してもらい、困っている生徒に対して、貸与できることを周知した。



大活字本・ハイブリッド絵本

点字・布の絵本



多様なツール



・読書が苦手な生徒のために、絵本コーナーを整備・拡充し、季節や行事関連の展示でポジティブな雰囲気のあるく入りやすい図書館づくりを心掛けた。

11月にハロウィンイベントとして、どんな本でも1冊借りるとかぼちゃの重さを当てて景品がもらえるイベントを設定した。その結果、普段来館しない生徒が多数訪れたり、生徒が教員を誘って一緒に図書館で楽しむ姿が多く見られた。



(2) 学習センターとして

・情報の古い図鑑や資料を多数廃棄し、タブレットと併用した調べ学習でも活用できるように「QRコードがついている」「絵や写真が多い」など、より魅力的で使いやすい最新の図鑑等を配置した。

～戦争資料コーナーの設置～

5月のゲストティーチャー講演会の戦争朗読劇にあわせて、事前学習用に体育館前教室に戦争関連のパネル・図書館にある図書を展示した。パネルの写真で戦争の悲惨さを改めて知り、その後関連した本をじっくりと読む保護者や生徒の姿が数多く見られた。この展示をきっかけに平和学習に興味を持ち、広島平和記念式典に応募し参加する生徒もいた。一緒に展示する戦争関連図書に関連したPOPや絵を募集したところ、好評だったので、その後図書館に戦争関連コーナーを常設し、社会や道徳、国語等教科をこえて利用しやすくした。



生徒が作成した鶴やイラストを展示し、戦争の資料を探しやすくした



～タブレットと図書の併用での授業活用～

・国語3年授業 短歌・俳句を作ってみよう

教諭より「生徒に十分な冊数がいきわたるように」というリクエストがあり、公共図書館からも歳時記等の資料を多数借り、図書館で授業を行った。タブレットでは断片的な知識しか得られないが、多くの資料から自分で選んだ図書を併用し調べることによって知識や理解を深めてから、思い思いの短歌を生き生きと作成していた。授業後良かった資料を伺い購入し、次年度に備えた。



・英語3年授業 行ってみたい世界遺産を英語で書いてみよう

教諭より「日本の世界遺産を多めに」というリクエストがあり、最新の世界遺産の資料を検索し、公共図書館から多数借り、図書館で授業を行った。タブレットでは世界遺産を調べると、多数の画像が検索できるが、情報が氾濫していて比較が難しい。しかし1冊でまとまっている図書では、行きたい場所をいろいろ比較しながらじっくりと調べ判断できるので、積極的な図書の利用が見られた。授業後良かった資料を伺い購入し、次年度に備え社会科でも利用しやすいように世界遺産コーナーを作った。



(3) 情報センターとして

- ・新潟日報と読売中高生新聞を図書館内入口に置き、半年分の新聞は図書館前ブックトラックに保管し司書が不在の時間でも教職員と生徒が自由に閲覧・利用できるようにした。
- ・公立高校の他に私立高校の入試の過去問・教科別過去8年分の過去問、高校調べに必要なパンフレットや図書を揃えた。
- ・調べ学習用にパスファインダーや、情報を整理するワークシートを置いて情報を収集、整理しやすいようにした。
- ・新潟日報のアプリふむスタの掲示物、電子図書館利用についてなど図書館だよりや掲示物を通して生徒に情報を発信している。
- ・多様な情報から知りたい情報を取捨選択し、適切に活用できるように導く本、SNS等で犯罪に巻き込まれないようネットリテラシーを意識した本を集め図書館入口に置くことで、ネットへの対応に常に意識してもらうように配慮した。借りていく生徒は少ないが、昼休みに読む生徒が多数見られた。



情報カードは4種類あり自由に
使えるようにした



4 中学校区連携

- ・松浜小学校から「1年生に読み聞かせしてほしい」という要望があり、職業体験の一環として図書館で図書整備をする予定だった2年生の生徒が読み聞かせに伺った。



何度も練習する様子



限られた時間の中での練習だったが、大型の絵本を生徒が複数人でかわるがわる感情を込めて読んだり、教諭や司書の読み聞かせとはまた違った雰囲気での臨場感あふれる読み聞かせとなり、最初は緊張していた児童と生徒も、導入前の手遊びでリラックスし、最後に笑顔で楽しい時間を過ごすことができた。その後七夕の飾りを一緒に作るなど交流の時間を設けたので、中学生や絵本に親しむ良い機会になった。



中学生の作る折り紙が人気

- ・松浜小と会議を行い、両校の生徒の読書傾向等の情報交換後、ラベルの統一、同じシリーズの本を入れることで中学校進学後の読書週間の継続を目指した。
- ・太夫浜小学校の8割が松浜中に入学するのにも関わらず、交流がほとんどなかったため、お互いの図書館に行き、蔵書構成を確認し、松浜小同様に同じシリーズの本の継続の確認と人気の本の情報の共有を行った。



～松浜図書館・松浜小学校・太夫浜小学校との合同展示～

- ・読書にもっと親しんでもらおうと広報委員会を中心として、読書川柳を作成した。真面目なものからユーモアのあるものまで個性あふれる作品が集まったので、地域の方々と、これから入学してくる児童に親しみをもってもらうために松浜中学校の歴史や図書館の様子がわかる掲示物を貼り、3つの場所に掲示許可をとった。

松浜図書館では図書館入口掲示板という一番目立つ場所を提供してもらい、「孫の作品を見に来た」という方や、じっと読み込んでくれる地域の方が多数いたという嬉しい報告を受けた。

- ・松浜小と太夫浜小での掲示では小学生が楽しそうに読む姿が見られ、松の盆栽のキャラクターの名前を決めるイベントのアンケート参加で好きな名前にシールを貼ってくれた。

その後、中学校のアンケートも合わせて決定したキャラクター名は、小学校にもお知らせし、中学校の図書館に親しみと期待をもってもらえる機会になった。





川柳と一緒に図書館の様子と中学校の歴史と校歌や図書館キャラクターの掲示物を貼り親近感をもってもらうよう意識した。

5 取り組みを振り返って 成果と課題

図書館主任・司書ともに当校勤務1年目であり、図書館の蔵書構成や、生徒の資質を知ることから始まり、図書館の整備が中心になってしまった。それでも様々な実践の中で、学校図書館は生涯を通じて本を読み、学び続ける楽しさを生徒に伝える入口であり、学びを支える大切な場所であるということを再確認できたことで、今後の図書館運営の課題も見えた意義のある一年間だったように思う。

学校図書館では、資料の選書・管理・提供という物的支援と教育活動に貢献する人的支援の両側面から生徒の学びをサポートしていくことが重要であるが、時代の変容によって図書館も変化し成長していく必要がある。来年度の課題としては主に4つあげられる。

- ①生徒が図書館で知りたい情報にすぐにアクセスできるようなブックリストを作成したり、パスファインダーの更新を行い、調べ学習ができる環境と利便性を更に高める。読書と学びに対する生徒のスキルの育成をサポートし、教員が必要とする資料の一層の充実を図っていく。
- ②図書館は多様性や障害を支援する施設であることを知り、生涯学習につなげていくきっかけにしてもらうために、りんごの棚を基点とした読書バリアフリー環境を更に整える。家庭科・道徳・総合等の授業で活用してもらい、様々な読書形態があることを理解し多様性と共生社会への理解を深める。
- ③広報委員をはじめとした生徒の自主的・主体的な活動を増やし、生徒自らが発信したイベント等を支援し、全校で読書活動を推進していく。
- ④松浜中学校が80周年を迎えることもあり、保護者以外の地域の方にも図書館を開放し来館した方々に貴重な郷土資料を見ていただく機会を設けるなど、地域住民全体の文化施設として周知してもらう活動に取り組む。公共図書館や小学校との連携事業も様々な形でできるよう努めていく。

「図書館は成長する有機体」と言われている。図書館は社会の変化に柔軟に対応し、常に進化していかねばならない。学校図書館も同様であり、生徒の成長と学びに貢献できる図書館を目指し、より使いやすく活用できる図書館をつくっていききたい。